

ふれあいのまち



松原かわら版

世帯数	1,206 戸
人口	3,021 人
高齢化率	25.0%
(平成)	30.8.1 現在

第 28 回
**松原
いづら祭**

台風 12 号の影響で、初めての順延となった「第 28 回いづら祭」。どうなるかと心配しましたが、当日は台風一過で天気にも恵まれて、参加者によるカウントダウンの花火でスタート。花を添えてくれた、中学生の息の合った「吹奏楽」、子どもたちの「ヒップホップダンス」は練習の成果が見られ、会場も盛り上がった。祭りの定番「盆踊り」、特に「松本ほんぼん」では会場の皆さんも輪になり、最高の盛り上がりで祭りの楽しさを感じました。

一方、恒例の「鱒づかみ」「流しそうめん」は中止となりましたが、各町会、専門部の方々が、皆さんが楽しめる出店等を企画、実行していただき、子どもから大人まで楽しめた祭りになったと思います。



が、松原の「活力ある町づくり」の一環として、少しでも貢献出来たかなと思います。

協賛していただいたお店の方々、又、ご協力いただきました実行委員会、中学生のボランティア、会員の皆様にお礼申し上げます。今後とも皆様と共に「明るく」「元気な」松原を築いていければと思います。

ありがとうございました。

企画担当責任者
町会連合会副会長 片岡 功

**盆踊りとダンスで
祭りは絶好調**

今年も盆踊り同好会と子どもヒップホップダンスチームが、いづら祭に参加して、お祭りの雰囲気を楽しみ上げてくれました。

「会員が高齢化していて、もう体力的に無理かな」という意見がある中、お祭りと一緒に踊ってくれる地区の人たちの笑顔を見たいと、お祭りに参加することにしました。(盆踊り同好会代表 瀧澤佳世子さん)

子どもヒップホップダンスチームは、講師の先生と子ども達の日程の都合で事前に 3 回の合同練習しかできませんでしたが、そのため、子ども同士で自主練習して、教わったことは次のレッスンではマ

中学生ボランティア

私はいいづら祭でアイスキャンデーのお手伝いをさせていただきました。アイスキャンデーのところに行っからは、そこにいた人たちが親切にしてくださいました。友達もいたこともあり、楽しく活動できました。お金をもらってアイスをわたす仕事でしたが、お手伝いをやっ

ターしている状態で合同練習に参加してくれました。

「この子たちの吸収力のすごさは感動ものです。(健康運動指導士 小林美穂さん)」

盆踊り同好会、子どもヒップホップダンスチーム、それぞれ見えない所での頑張りのおかげで、今年のいいづら祭も来場者のみんなが大いに盛り上がり、楽しむことが出来ました。



てよかったです感じました。

3年 朝倉 奈星

いいづら祭の準備に参加して思ったことは、とにかく楽しかったです。地域の方に優しくしてもらって楽しかったです。運営で店に来てくれる子どもの笑顔が多く見れてよかったです。来年も楽しみにしています。

1年 竹淵 珀

◆◆青山様・
ほんぼん◆◆◆◆

猛暑にもかかわらず、今年も 8 月 1、2 日に、青山様、ほんぼんが行われ、小学生が地区内を元気に歩きました。

みこしを作る時から、暑くて大変。とっても重くて疲れました。ヘトヘトです。でも、終わってからのジュースがおいしくて満足です!

小 5、小 6 男子
男子の声がよく出ていたのと、お賽銭を沢山もらえたのが、良かったです。あと、雨で中止にならなくて良かったです。

小 6 女子
みんな楽しそうにしていて、いいほんぼんでした。あめもジュースもおおいしかったです。

小 2 女子



夏休み

小学生自然体験会



8月19日、夏休みの小学生親子を対象に、松本市奈川地区の高ソメキャンプ場で自然体験会を開催しました。子ども17名と保護者12名、職員・ボランティア4名で松原地区公民館から市のバスで向かいました。キャンプ場では、事前準備のため別行動で到着していた「寿さと山くらぶ」の白川代表(松原第7町会)以下7名の会員の方々が高原の爽やかな空気のもとでお出迎えてくれました。

準備運動の後、キャンプ場周辺を樹木や高山植物、山菜について寿さと山くらぶの鈴木さん(松原第1町会)から教わりながら散策しました。「一直線上に並んでいる足跡はキツネ、4つの足跡がバラバラで指の跡が残っているのが熊」と、実際の足跡を見ながらの説明に、子ども達は興奮気味に聴き入っていました。

昼ご飯は「各自で持ってきたおにぎりと、釣池で釣ったニジマスとイワナの塩焼き」のはずだったのですが、慣れない子どもたちの釣果はゼロ匹でした。ただ、寿さと山くらぶの皆さんがバーベキュー用のお肉と野菜をたっぷり準備してくれましたので、子どもも大人も豪華な昼食会を楽しむことができました。



今回、子ども達は自然の山や池で色々なことを体験し学びました。特に自然の中で生きている魚は釣り堀とは違って、生活にリズムがあり、敵から身を守るため用心深く行動をしていることを身をもって学んだことでしょう。

赤沢美林

ウオーキング講座

8月11日の「山の日」を前に、山岳県の住民として、山や自然について木曾の赤沢自然保養林を訪れ学習しました。人間が関わることで活かし守られる自然もあることを学びました。森林を歩き良い汗をかいた後、みんなでお弁当を食べるのも健康の秘訣です。良い一日でした。(スポーツ推進員)



出来事

8月26日

東南ブロック球技大会

マレットゴルフ、ソフトバレー、卓球、軟式野球、バドミントンの5種目に出場

★我が家の自慢★



松原第4町会 小林さん 愛犬 ウメちゃん



我が家の自慢を募集します。町会・氏名を記入のうえ写真とコメントを松原地区公民館へお寄せください。

三大疾病講座①

「脳梗塞の予防と早期対策」を受講して



8月30日地区公民館にて市内のたきざわ脳神経外科クリニック院長瀧澤壮臣先生を講師に迎え脳梗塞について学ぶ機会があり、筆者自身も取材を兼ねて勉強させてもらった。

当日は30名を超える受講者があり関心の高さがうかがえた。はじめに松原在住で自身脳卒中を5年前に患い、今もリハビリを続けておられる平林さんの体験が語られ、続いて保健師の竹内さんから松本市の患者数、予防対策などの現状説明があった。最後に瀧澤先生から「脳卒中と予防」をテーマに予防の10箇条、初期症状、手術事例や血管の状態などについて写真をまじえ講演があった。受講者からは、怖くなったが一層注意したい。わかってはいたがあらためて実行しなくてはと感じた、等の声があふれた。直接話を聞ける機会は少ない。次回も受講しようかと思う。

(編集委員)

コラム 北の旅人

この夏、全国高校野球選手権が第100回の記念大会を迎え、球児達の熱い闘いが繰り広げられました。今年には母校の甲子園出場もあり、勝負を左右する一球に興奮しテレビを観ていました。高校野球100年の歴史では「奇跡のバックホーム」「決勝再試合」といった幾多の名場面がありました。また、甲子園だけではなく地方大会でも、9回8点差からの大逆転や松原地区出身選手の活躍などに盛り上がりました。こういった球児の全力・本気から生まれる奇跡のようなプレーが私も含め、多くの高校野球ファンを魅了し続けているのではないのでしょうか。

最近、野球人口も減りつつあるようです。そんな中、息子も野球を始めました。彼にはプレー以外にも野球を通じて多くの事を学んで成長して欲しいからと思えます。そしてこれからは高校野球の素晴らしい歴史がずっと続き、より一層熱い闘いが観られる事を楽しみにしています。

(編集委員)